

都内避難者の皆様への

定期便

2017

8月号

NO.139

都内に避難されている皆様へ、
東京都からのお知らせ等の情報を送ります。

都営住宅の募集について

(平成29年8月) (P1~2)

平成29年8月の都営住宅募集案内と、よくお寄せいただく質問にお答えします。

ふるさとに戻ったママさん座談会 【前編】 (P5~7)

県外への避難から福島県内に戻ってきたママさんに、避難生活と戻ってきてからの生活について語っていただく座談会を開催しました。

東京しごとセンター (P9~10)

東京都が実施する就労相談などのご案内です。

ふるさとからのお知らせ

(P3~4)

ふるさとの今をお知らせします。今月は福島県からです。

現地の応援団より (P8)

東北で働く応援団をご紹介します。今月は、宮城県に派遣されている若手職員からです。

※今回「司法書士による面談・電話相談のご案内」及び「都内避難者相談拠点のご案内」は別添えとなっています。

次号の発送は、9月1日を予定しています。

都営住宅の 募集について

平成29年 8月

都営住宅の募集が実施されます。

▶ 募集日程（予定）

平成29年8月1日(火)～8月9日(水)

今回の募集は、家族向（ポイント方式）、単身者向・単身者用車いす使用者向・シルバーピアとなります。

申込書は募集期間中（土曜・日曜・祝日を除く）に限り東京都住宅供給公社都営住宅募集センター、各窓口センター、都庁、区役所、市役所、町村役場で配布します。

■ 平成29年度都営住宅募集予定

募 集 月	対 象 者
平成29年 8月	1. 家族向（ポイント方式） 2. 単身者向・単身者用車いす使用者向・シルバーピア※
平成29年 11月 入居資格緩和 抽選倍率の優遇（避難者特例）	1. 家族向・単身者向（一般募集住宅） 2. 定期使用住宅（若年ファミリー向） 3. 定期使用住宅（多子世帯向） 4. 若年ファミリー向
平成30年 2月	1. 家族向（ポイント方式） 2. 単身者向・単身者用車いす使用者向・シルバーピア※

※シルバーピア：都内に3年以上居住している65歳以上の単身者や夫婦世帯を対象とし高齢者向けの設備仕様を備えた高齢者集合住宅

(注)入居までの期間については住宅によって違いがありますが、申込後、おおよそ5か月～1年後、あき家の発生状況によっては、これ以降になる場合もあります。

詳細は以下の問合せ先にご確認ください。

問合せ先

JKK東京〈東京都住宅供給公社〉都営住宅募集センター

電話

03-3498-8894

午前9時から午後6時
(土・日・祝日を除く)

URL

<http://www.to-kousya.or.jp/toeibosyu/>

都営住宅の募集について、よくお寄せいただく質問にお答えします



Q. 8月募集の「家族向（ポイント方式）」とは？

A. 家族向（ポイント方式）募集は、抽せんによらず、書類審査や実態調査をしたうえで、住宅に困っている度合いの高い方から順に、申込地区ごとの募集戸数分の方を入居予定者として登録するものです。

ひとり親世帯（母子・父子世帯）・高齢者世帯・心身障害者世帯・多子世帯（18歳未満の子どもが3人以上いる世帯）・特に所得の低い一般世帯・車いす使用者世帯等限られた方が対象です。

都内に3年以上お住まいで、都営住宅の入居資格に該当することが必要です（車いす使用者世帯向については都内3年以上という制限はありません）。



Q. 左の「平成29年度都営住宅募集予定」以外に都営住宅の募集はないの？

A. 東京都住宅供給公社都営住宅募集センターでは、「病死等で発見が遅れた住宅」などについて、募集を行います。先着順ではありません（抽せん方式）。次回の募集時期は、10月中旬（家族向及び単身者向）の予定です。

また、都営住宅ではありませんが、東京都住宅供給公社が取り扱う「公社住宅」については、下記へお問い合わせ下さい。

※お電話の際に、避難中である旨お伝えいただくとスムーズです。

●「公社住宅」に関する問合せ先

JKK東京〈東京都住宅供給公社〉公社住宅募集センター

電話番号 03-3409-2244 (代)

営業時間 9:30～18:00（日曜・祝日・年末年始を除く）

ふるさとからのお知らせ

今月は福島県からお知らせします。

復興公営住宅の現在の整備状況

現在、福島県が進めている復興公営住宅について、平成29年4月末時点で、計画戸数4,890戸のうち3,423戸（70%）が完成しました。地区ごとの工程表と進捗状況、各団地の外観と室内の様子動画を福島県ホームページに掲載しています。詳しくは下記福島県ホームページよりご確認ください。

▶ 地区ごとの工程表と進捗状況

復興公営住宅 地区ごとの工程表と進捗状況

検索

▶ 各団地の外観と室内

福島 復興公営住宅 動画

検索



● お問合せ先

福島県 建築住宅課 ☎ 024-521-8049

被災12市町村の約300事業者の求人情報サイト

「ふくしまで働こう！復興エリア求人特集」を開設しています

避難指示等の対象となった被災12市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村）の事業者の人材不足解消を図るため、上記市町村を中心とした求人情報サイトを開設しています。

事業を再開・拡大し、復興を遂げようと意欲に燃える多数の企業が登録しています。求人情報からその思いを感じ取り、ぜひご応募ください。

スタンバイ 福島

検索

市町村ごとの特集、住宅補助あり特集など、会社やお店の社長や従業員のメッセージ付きで、希望の職種を探しやすくなっています。復興エリアで働いてみませんか？

● お問合せ先

経済産業省委託事業
福島求人支援チーム事務局
☎ 0120-954-065

避難地域における医療機関の診察実施状況

現在、福島県内10市町村で、下表のとおり、2つの病院、12の診療所、4つの歯科診療所及び2つの薬局が診療・営業しています。また、南相馬市の小高調剤薬局、富岡町の富岡中央医院及び浪江町の浪江診療所が開所しました。詳しくは下記福島県ホームページをご確認ください。

また、ふたば救急総合医療支援センター（福島県立医科大学）では、双葉郡内にお住いの通院が困難な方を対象に、訪問診療を行っています。詳しくは、お住いの町村の保健福祉担当課にお問合せください。

南相馬市(小高区)	市立小高病院	川俣町(山木屋地区)	川俣町国民健康保険山木屋診療所
	もんま整形外科医院	楢葉町	ときクリニック
	半谷医院		蒲生歯科医院
	小高調剤薬局		ふたば復興診療所(ふたばりカーレ)
田村市(都路地区)	市立都路診療所	富岡町	町立とみおか診療所
	市立都路歯科診療所		富岡中央医院
広野町	高野医院	川内村	川内村国民健康保険診療所
	馬場医院	浪江町	浪江町国民健康保険浪江診療所
	新妻歯科医院	葛尾村	葛尾歯科診療所
	広野薬局	飯舘村	いいたてクリニック

※医師の都合等により、診療日・診療時間は変更となる場合があります。

受診の際はあらかじめ診療日等を医療機関にご確認ください。

避難地域における医療機関の診察実施状況

検索

●お問合せ先

福島県 地域医療課 ☎ 024-521-7915

小児健康診査を開始します

平成29年4月1日現在、対象地域に住民票のある、平成14年4月2日から平成29年4月1日までに生まれた方等は、平成29年7月～12月まで、福島県内小児健康診査医療機関一覧に掲載の医療機関にて県民健康調査「健康診査」を受けることができます。健診費用は無料です。

「小児健康診査」お知らせ、平成29年度「小児健康診査」医療機関一覧等の発送時期は6月下旬～7月上旬を予定しております。また、福島県外に避難されている方には、6月～10月頃県外版を別途お送りいたします。

●お問合せ先

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
☎ 024-549-5130
(土日祝日を除く午前9時～午後5時)

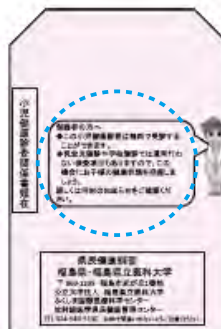
小児健康診査封筒

今年度はこの封筒で小児健康診査対象者へ送付されます。

保護者の方へ

- ◆この小児健康診査は無料で受診することができます。
- ◆乳幼児健診や学校健診では通常行わない検査項目もありますので、この機会にお子さんの健康状態を把握しましょう。

詳しくは同封のお知らせをご確認ください。



ふるさとに戻ったママさん座談会

in 福島県郡山市【前編】

東京が梅雨入りした6月8日。震災後に新築された郡山市中央公民館に、県外への避難から福島県内に戻ってきたママさん5人と福島市内で「みんなの家」や「ママカフェ」を運営するNPO法人 ビーンズふくしまの富田さんをファシリテーターとして迎え、避難生活と戻ってきてからの生活について語っていただく座談会を開催しました。



(参加者…県外避難先) ※順不同

Aさん…兵庫県 Bさん…宮城県 Cさん…兵庫県
Dさん…東京都 Eさん…北海道 Fさん…山形県

●主なトピック

- 避難を決めたきっかけ、場所選びについて
- 避難先での様子について
- 帰還したきっかけ、帰還すると決めた時のことについて
- 時間の経過による変化、戻ってきてからの思いなどについて
- 今も避難をしている方へのメッセージ

【避難を決めたきっかけ、場所選びについて】

富田さん：まずは、避難を決めたきっかけ、避難先をどこにしたかについて話を聞きたいと思います。

Aさん：私は、3/13でした。当時、すごく混乱していました。神戸行の航空券がとれたのがきっかけでした。空港の中で1泊し、翌朝東京でトランジットをして神戸へ向かいました。多くの外国人が大きなスーツケースを持って空港へ来ていたのが記憶に残っています。

Bさん：私は、3/14の深夜1時にとにかく距離をとりたいと思い、旦那さんの知り合いがいる富山へ向かいました。富山で1週間、その後新潟でしばらく過ごし、一度福島に戻った後、また新潟県で4月末から約3ヶ月過ごし、実家のある宮城県へ行きました。

Cさん：私は、3/16か17に避難することにしました。那須塩原から3/16に新幹線が動き始めると聞いたので、夜中に車で向かい、始発の新幹線に乗り、半分パニック状態のような感じで実家へ向かいました。

Dさん：私も同じ時期でした。一度悩みながらも福島で生活しようと決めましたが、実家や友人が心配したこと、お腹に赤ちゃんがいたので心配だったこともあり、主人と相談し、実家に避難することにしました。

Eさん：私は、特に縁はない場所だけど、日光へ行きました。郡山市役所付近の線量が非常に高い映像を見て、『これはやばい、ここにいてはいけない』と思って避難を決めました。とにかく遠くへ逃げたいという思いがあったので、その後北海道へ車とフェリーで向かいました。小学校の関係で避難したのは7月でした。



Fさん：当時、ママ友が続々と避難したという話を聞いていると、だんだん不安が大きくなり、親戚も避難しておいでと言われてくれたので、3/19頃から埼玉や東京の親戚宅を転々としていました。新学期に学校が始まるので一度福島へ戻りましたが、外遊びが制限され、マスクをしなくてははいけないという状況が普通ではないと感じました。山形で借り上げ住宅制度が始まったことを機に夏休みに山形へ転居しました。

【避難先での様子について】

富田さん：避難していた年月や場所もそれぞれですが、実家だからいい点、誰も知らない所だからいい点など様々だと思います。皆さんの避難していた時の様子について話をさせていただきますか。

Aさん：私は、旦那さんの実家のあった神戸に避難していましたが、遠くへ行くほど福島県の実情が耳に入ってこなかったの、とにかく情報が欲しかったです。サロンへ行こうと思ったのは、同じ状況で理解しあえる人、他人事ではなく自分のこととして一緒に話を、考えられる人と会いたかったという思いからです。

Cさん：私は兵庫県加古川市に避難していましたが、避難者が少なかったこともあり、閉鎖的に感じました。近くの市でサロンなどもありましたが、地域によって雰囲気は違っていったように思います。私も同じ気持ちの人と出会いたいと思ってサロンに行きました。しかし、避難元の違いだったり、避難者同士でも考え方が違って、完全に心は開けなかったように思います。『福島県に帰る』と話をすると、『子供に責任持てるの？』と心配されたこともあり。最後は『頑張ってるね』と送り出してくれました。



Bさん：私は宮城県仙台市の実家に避難をしましたが、仙台市も被災地なので自主避難者のための借り上げ住宅の募集が少なく、制度を利用できませんでした。自分だけが『被災した人』という感覚にはならず済んだけれど、福島から来たのは自分だけで、自分ってなんだろうという思いもしました。実家に1年半、その後は全て自腹で実家の近くにアパートを借り2年間、支援もなかったけれど、こんなものなのかなと思っていました。一度、避難者のサークルに行ってみたのですが、みんなの気持ちがバラバラすぎて、一回きりしか参加しなかったです。

Eさん：私は、親戚もない札幌市へ避難しました。避難者登録をしたら定期便が届くようになり、情報が得られるようになりました。イベントなど、盛んに支援をしてくれたように感じました。避難していた人も多く、コミュニティができていました。当時は特に「支援者」ではない人でもすごく話を聞いてくれて救われたように思ったし、子育て支援センターなどでも暖かく接してくれたし、助けられ、すごく過ごしやすかったです。

Dさん：私は東京の実家に避難をして、避難者登録をしたら定期便が届くようになった。定期便で、避難者の集まる会があることを知っていたけれど、自主避難者である私と、他の参加者と状況が違うのではないかとと思うと行く気持ちになれなかったです。当時は区民ではないという思いから、児童館にも行きにくく感じ、地域の行事にも参加できなかつたです。地域との関わりが全然できなかつたので、子供にも申し訳ないなと思いました。自分の居場所じゃないと思うと自分から動けなかつたです。



富田さん：避難しているママたちは、避難先で生活をしているけど、福島にもいつか帰るといふ両足がつかない感じがして、どっちが自分のホームなんだろうという感じを持つことがあるんですね。実家だから大丈夫と一般的に思われがちだけど、結婚して子供と一緒に住むと、難しいところもあるんですね。

Cさん：私は、ずっと実家から離れて暮らしていたので、子供と両親と一緒に暮らせる日が夢のようで、同級生とも会え、すごく楽しく過ごしていました。定期便などで集まりなどをお知らせも人が集まらないことについては、避難していることを隠したい人もいて、情報提供も、ありがたくないと感じる人もいるという話を聞きました。

【帰還したきっかけ、帰還すると決めた時のことについて】

富田さん：帰る時の話もでしたが、帰ると決めたきっかけや、帰ると決めた時の周りの反応などについて話してもらえますか。

Bさん：私は、いずれ帰ると思って避難していたので、納得できると思った時に帰ってきました。線量、自分や家族の気持ち、経済的な理由などを日々天秤にかけ、ここにいっても、帰っても同じだと思えた時に帰ることを決めました。帰ってきてからの思いを天秤にかけると、『うれしい』という思いが大きく、帰ってきてよかったと思っています。



Aさん：私は徐々に帰ってきてよかったと思えるようになりました。友人の中には帰らないことを決めていて、帰ることへの反応は友人の間でも温度差がありました。帰ってきて4年目、ようやく取り戻せたように感じています。

Cさん：私は、真ん中の子が小学校1年生に入るタイミングで帰ってきました。いつ帰れるのという思いが大きくなり、父が息子と交流できないこともあり、避難生活も2年が限界だと感じました。帰る、帰らないで気持ちが振り子のように揺れ、帰ってもしばらく揺れていました。今は帰ってよかった、あの時の判断は間違っていなかったと思えるようになりました。

Eさん：避難生活が3カ月と短く、北海道での生活がよかったので、私は納得して帰ってきたわけではなかったです。生まれ育った福島なのに、福島が嫌だという思いで1年以上過ごしました。自分のやり方で子供を守ると決めて、家族とも温度差が生じ、対立もしました。徐々に慣れてきましたが。

Dさん：私はずっと『帰らなきゃ、でもまだ帰れない』と考えていました。主人からも会うたびに『いつ帰ってくるの?』と言われる日々で、上の子が年中に上がるタイミングで帰ってきました。主人の意向で、東京で子供を幼稚園に入れてあげられなかったという悔しい思いもありましたが、『やっと普通の生活を送れる』という嬉しさもあり、納得して帰ってきたと思います。でも、福島に戻ると、みんな『普通』の生活をしているので、気になることを口に出せなかったです。

Fさん：自主避難者の多い山形に避難していたので、みなさんの避難先での生活とは違っていたかもしれないです。子供の通う小学校にも避難者が多く、校長先生の計らいで、避難者のお茶会を開いてくれるなど、自主避難者を中心としたつながりをもつことができました。その反面、帰還困難地域からの避難者や地元の方とのつながりは薄かったです。周りにいる人が福島の人ばかりだったので、『場所だけ山形に移動してきた福島県の人』という感覚でした。避難先では、『福島は危ない』と話す人が多く、その影響を受けて、戻ることへの不安もありました。しかし、家族で暮らしたいという思いが大きくなり、納得したというよりも、もう潮時かなと仕方なく帰還を決めた感じでした。帰ってきてしばらくは疑問に思うことも多かったけれど、「ままカフェ」に参加して話をすることで少しずつ良かったと思えるようになり、今は楽しく過ごしています。



【後編】は9月号に掲載します

主なトピック

- ・時間の経過による変化、帰ってきてからの思いなどについて
- ・今も避難をしている方へのメッセージ

●お問合せ先

東京都総務局都内避難者支援課 ☎ 03-5388-2384

現地の応援団より

東北で働く応援団をご紹介します。

今月は東京都から宮城県に派遣されている若手職員からです。

私たちのいる仙台土木事務所は、県南部沿岸における道路や河川などのインフラ整備をしています。現在も復興に向けた工事は次々に行われており、地域のみなさまのご協力も得て新しい道路や堤防などができ上がっていく様子を見ると、復興の力添えになれている実感がわき、とてもうれしい気持ちになります。また、真新しい施設が立ち並ぶ様子を見ると、宮城県の沿岸地域でも着実に復興してきているのを感じられます。

先日訪れた、七ヶ浜町の菖蒲田浜海岸（写真）では、新しい堤防が完成しつつあります。県内有数の海水浴場に数えられる菖蒲田浜海水浴場は、震災後しばらくお休みしていましたが、昨年のプレオープンに引き続き、今年度、7月15日から7年ぶりの海開きが行われました。

堤防からの眺めも素晴らしく、晴れた日には大変気持ちのいい風を感じられます。休日には県内外から多くの人出で賑わうことでしょう。

東北の夏といえば祭り、これから夏本番を迎える宮城でも、気仙沼みなとまつりや仙台七夕祭りなど、数多くのイベントが待っています。

私たちもこうしたイベントを楽しみ、宮城のファンとなって、たくさんの人に宮城の魅力を発信していきたいと思います。



青葉まつり（5月20日・21日）



塩竈神社・しおがまさま 神々の花灯り



荒浜港今泉線



↑ 写真左下の白い部分が新しい堤防
菖蒲田浜海岸（七ヶ浜町）

宮城県仙台土木事務所 小関 卓大, 安藤 愛